

広島市域医師会からの提言

広島市医師会・安佐医師会・安芸地区医師会は、2020年2月に新型コロナウイルス感染症合同対策本部会議を設置して感染症の拡大防止に取り組んでいます。

市民の皆さまへ

★正しい知識があればウイルスの拡がりは防げます。

多くの人は感染しても無症状や軽症です。物に付着したウイルスは自分では動けません。
ウイルスに感染している人が動くことによって移動します。

★日本国で、感染爆発の危機が迫っています。

自分を守り、周りの人を守る思いやりある行動が、医療崩壊を防ぎます。

★皆さん自身が感染源になりうることを考えて行動しましょう。

【皆さんがしなければならないこと】

1. ウイルスの飛散をマスクで止めましょう。

マスクをすることで、自分を守り、周りを守ることになります。
マスクが購入できない場合、手作りマスクも有用です。
診察室でもマスクは外さないでください。

2. 石鹸で手洗い、もしくはアルコール消毒をしましょう。

ウイルスの被膜は、石鹸やアルコールで溶けます。手洗には必ず石鹸を使いましょう。
人が触れた物や人を触った手では、手洗・消毒をするまで、自分の顔を触れたり飲食をしたりしないようにしましょう。

3. 元気な方も3密（密閉空間・密集場所・密接場面）は避けましょう。

気づかずに感染させた周りの人が重篤になる場合があります。
3密の条件下では感染力が強まります。
自分が感染クラスター（集団）の原因とならないように、また巻き込まれないようにしましょう。

4. 熱や風邪症状がある方は、登校・出勤・外出をしないでください。

発熱や咳が続いてご心配な方はかかりつけ医に、特に37.5℃以上が4日間続いたら、
かかりつけ医やコールセンターに相談しましょう。かかりつけ医など医療機関を受診
する際には、直接来院するのではなく、まずお電話を。
コールセンター(082)241-4566は、5月1日から24時間土日祝日を含め対応します。

※広島市医師会・安佐医師会・安芸地区医師会は、広島市や専門家と連携して市民の健康を守ります。

医師の皆さまへ

★医師会は皆さまと共にあります。

2020年は、東京オリンピック・パラリンピックが日本で開催される希望に満ちた年になるはずでした。しかし、今は、先の見えないウイルスとの戦いの最中にあります。

医師会は皆さまの代弁者として、行政や各方面に医療現場の窮状を繰り返し訴え、協力を求めています。最前線に立つ皆さまを守るため、医師会は戦います。

★自分とスタッフと医療機関を守りましょう。

まず、自身を守ること、スタッフを守ること、医療機関を守ることが、医療崩壊の回避につながります。

基本的なことですが、標準予防策であるサージカルマスクの着用、手指衛生の励行など準備を怠りなく、かかりつけ患者さん等の診療・相談に当たってください。

特に疑わしい患者さんを受け入れる際には、他の患者さんとの診療時間や動線を分けてください。

★情報は精査して。

医療資材の不足は深刻です。大変お困りだと思います。

医師会にも各方面から、マスクやフェイスシールドなどの寄付や、代替品作成の情報などが寄せられています。医師会では、それらを精査し、正しい情報、皆さまの役にたつ情報を少しでも早くお届けします。

しかし、世間に出回るさまざまな情報の中には、不確実なものも多くあります。情報は十分精査してください。

行政へ

★医療資材の不足対策を強化し、医療従事者と医療機関を守ってください。

医療資材の不足は深刻です。医療崩壊を防ぐためにも、対策を強化してください。

★PCR検査の早期拡大実施の取り組みをお願いします。

見えない患者が、自覚が無いままに広島を歩いています。

PCR検査の拡大が、「見えない患者」を「見える患者」にし、感染拡大を防ぎます。

★いわれのない差別や非難から、医療従事者を守ってください。

「近くにコロナ患者を収容した病院がある」、「医療機関に勤務している」、ただそれだけで患者さんが減ったり、避けられたりした例もあると聞きます。

誰もが患者になる時代です。市民の皆さんへの啓発活動をお願いします。